

# 慢性期病棟入院患者における 各種ビタミンと微量元素の評価に関する研究

村崎明広<sup>1)†</sup> 東野明澄<sup>1)</sup> 西尾奈々<sup>1)</sup> 落合容子<sup>2)</sup> 柏宗伸<sup>3)</sup>  
松本清<sup>2)</sup> 市川俊介<sup>4)</sup> 白石潤<sup>4)</sup> 石崎恵子<sup>4)</sup> 吉田光宏<sup>5)</sup>

IRYO Vol. 74 No. 11/12 (472-480) 2020

## 要旨

【背景】政策医療の対象である精神疾患、重症心身障がい児（者）等の入院患者の入院日数は、急性期の入院患者と比べ長期間である。慢性期病棟に入院中の重症心身障がい児（者）や精神疾患患者では、偏食や拒食を認めることも少なくない。

そこで本研究では、政策医療のもと慢性期病棟に長期入院している患者のビタミンやミネラルの摂取量をそれらの定期的な血液検査で評価できるか、欠乏症の予防に繋がる栄養管理の評価指標について検討した。【方法】対象は、6カ月以上国立病院機構北陸病院（当院）慢性期病棟に入院中で、対象者自身もしくはその家族（介護者）から同意を得た重症心身障がい児（者）、精神疾患患者、精神身体合併症患者53名（男性29名、女性24名）とした。研究期間中に、定期的に食事摂取量とビタミン（B<sub>1</sub>、B<sub>12</sub>、葉酸、E）およびミネラル（Mg、Fe、Zn、Cu、Se）（空腹時）の血中濃度を測定した。【結果】ビタミンEの血中濃度と入院日数との間に有意な負の相関を認め、食事摂取量および血液データ値で基準に満たない対象患者が存在することが明らかとなった。

【結論】慢性期病棟に長期入院患者においては、ビタミンとミネラルの食事摂取量および血中濃度を定期的に把握する必要性が示唆された。

キーワード ビタミン、微量元素、栄養管理、長期入院、政策医療

## 緒言

慢性期病棟に長期入院している患者は、長期間病院食を摂取している。病院食の基準は健常者の食事摂取基準で示された値を用いている。健常者と重症心身障がい児（者）や精神疾患患者の食事摂取基準の違いについては十分な研究がなされていない<sup>1)2)</sup>。

また、慢性期病棟に入院中の重症心身障がい児（者）や精神疾患患者は、偏食や拒食を認めることも少なくない。長期間の各種ビタミン、とくにビタミンB<sub>12</sub>（VB<sub>12</sub>）、葉酸やミネラルの欠乏は、認知機能、中枢・末梢神経、心機能に悪影響を及ぼすことが知られ、セレン（Se）は近年その関係が注目されている<sup>3)-7)</sup>。在宅認知症高齢者において、ビタミン欠

国立病院機構北陸病院 1) 栄養管理室 2) 研究検査科 3) 薬剤科 4) 精神科 5) 神経内科 †管理栄養士  
著者連絡先：村崎明広 国立病院機構北陸病院 栄養管理室  
〒939-2692 富山県富山市婦中町新町3145 国立病院機構 富山病院  
e-mail : murasaki.akihiro.mr@mail.hosp.go.jp  
(2018年10月16日受付、2020年7月10日受理)

Evaluation of Various Vitamins and Microelements in Inpatients Undergoing Chronic Hospitalization  
Akihiro Murasaki, Asumi Higashino, Nana Nishio, Yoko Ochiai, Munenobu Kashiwa, Kiyoshi Matsumoto, Shunsuke Ichikawa, Jun Siraisi, Chieko Ishizaki, Mitsuhiro Yoshita, NHO Hokuriku Hospital  
(Received Oct. 16, 2018, Accepted Jul. 10, 2020)

Key Words : vitamins, microelements, nutritional management, chronic hospitalization, medical care policies